

小学校国語科教育 理論研修会 終了報告

テーマ	読む力を伸ばす国語授業をつくる～言語活動とアクティブラーニング～	
日時	平成27年8月28日（金）	
会場	江別市立大麻小学校	
講師	青木伸生氏（筑波大学附属小学校 教諭）	
参加者	83名	
研修会 の 様子		<p>授業公開は大麻小学校体育館にて実施。</p> <p>普段とは異なる場所、初めて会う先生との授業、そして多くの参観者に囲まれ、5年生の子ども達も緊張の様子。そんな子ども達に対し、青木先生は、授業前のわずかな時間を利用して、クイズを出しながら、コミュニケーションを図っていました。</p>
		<p>教材は「大造じいさんとがん」。授業前段は音読指導。まず1回音読し、次に青木先生に聞いてもらうつもりで2回目を読みました。「1回目と2回目で変えたことはある？」という問いから、相手に伝える読み方には、声の大きさやスピードだけでなく、「間をとること」「体の向き」が大切だということを学習しました。</p>
		<p>登場人物、中心人物、大造じいさんの立てた作戦の回数など、物語全体の枠組み（フレーム）を確認し、物語の最初と最後で、残雪に対する大造じいさんの印象が大きく変わったことを確かめました。</p>
		<p>「最初、残雪を『いまいましく』思っていた大造じいさんの気持ち、『がんの英雄よ』と変わったのは、どこだろう？」3つの作戦から山場となる「クライマックス場面」を探し、さらにその中の最も変わった一文「クライマックス」をさがしました。</p>
		<p>講演会では、「配当数時間の少ない高学年では、作品全体の枠組み（フレーム）を捉えさせ、必要に応じてピンポイントで切り込めばよい」「これからの国語では『課題設定能力』を育てることが大切である」ということを、「きつねのおきゃくさま」や「ウミガメの命をつなぐ」などの題材を例に話していただきました。</p>